

News letter

建築家とつくる家
個性をカタチに、賢い家づくり。

2026.03 Vol.62

R+house



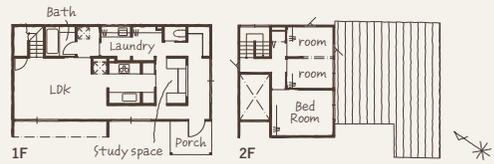
猫と暮らす丘の上のプレーリーハウス

物件の詳細情報は [こちら](#) へ



棚田の記憶を継ぐ住まい

飛騨山脈西側の棚田跡地に計画された本住宅は、地形のアンジュレーション（起伏）を継承し、段々状に積層した構成とすることで周辺風景に馴染む住まいを目指しました。下階に機能を集約し、塀や高低差、セットバックを用いて視線を制御しています。内部はBOX状の要素と吹き抜けによって空間に広がり秩序を与え、地域と穏やかに関わる居場所を創出しました。また本計画は、先代から受け継いだ棚田をデザインコードとして、建築家と共に再解釈し、住宅地へと転換することで地域に還元しようとする、建設会社の覚悟の表れでもあります。



1 良好な環境が確保できる南東側がアプローチとなることから、外部には塀や前庭を、内部には土間やスタディスペースを設け、プライバシーの濃度が段階的に深まる構成とした。



2 前庭と連続する土間は、木漏れ日が差し込む、外部のような空間とし、隣接するスタディスペースと屋外を緩やかに接続させている。



注意深く周辺環境をリサーチして良質な環境をつくり出すことも建築家の役割。スタディを繰り返すことで快適な居場所を提案できた。

1. 隣地が棚田状に連なる環境を踏まえ、高低差に配慮しながら良好な景観を積極的に取り込む計画とした。
2. 黒いボックス状のボリュームをもつスタディスペースは、動線を明確に分ける仕掛け。
3. 土間を介して前庭と緩やかにつながるスタディスペースは、カフェのような設えとした。
4. 入れ子状に設えたキッチン内包する黒く塗られたボリュームは、空間を明確に分節する機能も併せ持つ。
5. 南西側の隣家を避けた位置に開口部を設けることで、日照を取り込みつつ視線の抜けを確保し、広がりのあるリビングを目指した。
6. 上下を繋ぐ階段は折り返すことで、北東側だけでなく南西側の風景も取り込む、開放的な吹き抜けとした。



建築家プロフィール

長谷部 勉 Hasebe Tsutomu

1968年 山梨県生まれ
 1991年 東洋大学工学部建築学科 卒業
 1991年 堀池秀人都市・建築研究所 入所
 2000年 株式会社服部建築計画研究所 入所
 2002年 I.B.S.ARCHITECTS 参画
 2002年 H.A.S.Market 設立
 2005年 日本フードアナリスト協会 評議委員
 2006年 東洋大学 非常勤講師
 2014年 建築家住宅の会 理事
 2018年 Meisters Club 理事
 趣味 ゴルフ、クルマ



memo

Architect: アントニオ・ガウディ

Location: スペイン・バルセロナ



波のようにうねる彫刻のような石のファサード、構造的にはカーテンウォールだからその象徴的外観。



外観とは対照的に柱と梁が整然と配置された合理的な構造が解る中庭。

世界遺産の賃貸アパート

2019年秋コロナ前に訪れた、バルセロナのカサ・ミラ(1912年完成)をご紹介します。皆さんもよく知っている世界一有名なアパートで、現在でも一部賃貸住宅として利用されている世界遺産です。外観の特徴として直線がほとんど存在せず、波のようにうねる石のファサードや屋上テラスが有名ですが、ここでは構造について話したいと思います。建設当時としては極めて革新的な、柱と床で支える、集合住宅として間取り変更が自由で合理的な構造です。その合理的な構造は柱と梁が整理された中庭を見ると解ります。あの造形的な石のファサードは吊られていて荷重を支えていないんです。カサ・ミラは彫刻のように見えて、実は非常に理想的な構造体なんです。

柳 能展 Yanagi Yoshinobu

プランアーク建築事務所
趣味: 映画、ドラマ、ライブ、ジム



建築家 おススメ “ライブ”

～暮らし、生きるということ～

趣味を兼ねて旅行をします。旅先ではいろんな人々、そして人々の暮らしに出逢います。仕事から建築や暮らしに目がいてしまいます。海を求めての旅行なので、あまり開発されていない土地に行くことが多いのですが、そこでの暮らしは裕福と云えないものもあって、道路は舗装されておらず、家もつぎはぎ。道端で食べ物を売っている、子供たちははだして駆け回る。でも、彼らはとても生き生きしています。旅行者側は多分、普段彼らより収入が多く、所謂裕福な暮らしをしているのでしょうか、旅行者よりも生き生きと、キラキラした目をしています。

行くたびに、暮らすこと、生きることってなんだろうなあと、考えさせられるのです。



いとう あつし Ito Atsushi

スタジオA.I.A./伊藤淳建築設計事務所
趣味: スーパーバイキング、神輿、和太鼓、乗馬、音楽、映画、車バイクなど



素晴らしい海、でも本来こうであつたはず。立ち並ぶ店も屋外で調理するところも。



人々の暮らし。人々の会話が行き交い、いきいきと暮らしています。

Topics 1 自然素材と経年美化



皆さんは住宅を建てるときに何を重視するでしょうか。今はSNSなどで色々と目についてしまうので、情報が多すぎて整理しきれないのではないかと思います。特に最新の設備や流行りの間取りなどは目にする機会も多いので、どうしても採用したくなると思います。それが悪いことではないのですが、一度立ち止まって考えたいと思います。何十年も住むことになる住宅です。20代や30代で建てても70代・80代までその住宅に住む人は多いと思います。

その時、建築当時に選んだものをずっと良いと思ってもらえるでしょうか。流行も家族構成も何もかも変わってしまいます。であれば、普遍的に変わらないものや年月を経て良くなっていくものを選ぶのも一つではないでしょうか。

私の自宅は無垢のフローリングを使用してい



て、天井も無垢の羽目板になっています。壁は珪藻土と柱が見えます。つまり、自然素材しか使用していません。テーブルや椅子・ソファも無垢の木です。年数も経って経年美化してきました。自然素材は劣化しないので、年月を経て美しくなっていきます。なので、経年劣化ではなくて経年美化と言います。使い込まれて美しくなっていきます。

年月を経たときに建てた時よりもその住宅のことを好きになっていたら、とても素敵なことではないでしょうか。自分たちと一緒に成長していく住宅。そんな視点で住宅づくりを考えてみるのも良いのではないかなと思うのは、自分が年老いてきたせいなのでしょう。



Topics 2 山を歩き、自分を整える



東京都心から一時間ほどで出会える、豊かな自然。世界一の登山客数を誇ると言われる高尾山ですが、その魅力は、自分のペースで「自由」に楽しめることに感じています。

訪れるのは花粉症の時期や厳しい暑さを避け、空気が凛と澄み渡る秋から冬にかけて、年に4～5回ほど。決まった季節に、決まったリズムで足を運ぶのが私の定番です。こだわりは、必ず麓から一歩ずつ歩き始め、静かな山道を進むことが、日常のなかで心身をリセットする大切な時間になっています。

高尾山の魅力は、その日の体調や気分を道を選べる「懐の深さ」にあります。しっかり歩き込みたい日は「稲荷山コースの尾根道」へ、あるいは自然のせせらぎに癒やされ



たいときは「6号路」へ。多彩なルートがあるからこそ、何度訪れても新しい発見があります。

山頂で3回に1回ほど顔を出してくれる、雄大な富士山の姿も楽しみの一つ。くっきりとその勇姿を拝めた日は、それだけで疲れが吹き飛んでしまいます。

もちろん、食の楽しみも欠かせません。香ばしい名物の「ごま団子」を味わい、帰りはリフトに揺られて山の色を眺める。そして一日の仕上げは、麓の老舗「高橋屋」へ。歴史ある店構えの中で喉越しの良いお蕎麦を啜れば、心身が隅々まで満たされていくのを感じます。

スティックになりすぎず、楽しみも忘れない。そんな自分なりのリズムで山と向き合う時間は、日々の生活に心地よい余白をくれる気がしています。

